



Light 光

関連イベント 参加募集中！！

- 3月30日(日) 芸能交流ライブ(岩手県大槌町)
- 4月1日(火) キッズ向けライブ(横浜)
- 4月4日(金) キッズ向け体験ワークショップ(横浜)
- 4月4日(金) シシ・獅子トーク&レクチャー(横浜)
- 4月8日(火) 一般向けガムランワークショップ(目黒)

インドネシア・バリ島のガムランは、熱帯の豊かな自然とそこに暮らす人々の生活に密着して演奏され、進化し続ける、打楽器アンサンブル。その音楽と出逢い、2001年より演奏活動を続ける日本の楽団、トゥラン・ブーランによる”Interactions 相互作用” シリーズ第2弾。

相互に作用するエネルギーは、音楽を奏で、舞い踊り、特別な場を構築する原動力でもあります。

キーワードとしての Light 光

この公演における“Light 光”は、音楽や芸能の生み出すエネルギーそのものをイメージしています。

しかし、光はそれだけで存在するものではなく、光のない「闇」と常に同時に在るもの。光と影、陽と陰、昼と夜、白と黒、男と女、善と悪、などの、様々な二項対立の概念や哲学が語るものは、すべて対極にあるものは表裏一体であり互いに補い合い、常に双方が存在している、ということ。

例えば、バリ島の人々はこの二元論の概念を“ルワ・ヒネダ Ruwa Bineda”と呼び、我々は2つの相反する要素のバランスの中に生きている、という世界観を持っています。2つの要素のどちらかがどちらかを完全に圧倒することはありません。

また、これらの2つの間には、限らないグラデーションが存在します。

それでも、音楽や舞い踊り、動きや揺らぎに”光”をより強く感じるの、何故でしょうか。

バリ島と日本、双方の音楽芸能・芸術の”光” ”闇”と共にある光”に満ちた宇宙が、その場に居合わせる人々の聴覚、視覚、身体全体の触覚、そして内的世界と、どのように響き合い、さざ波となってその場を満たすでしょうか。



■2日間共通演目 ※演目・出演者は変更となる場合もございます

- ガムラン器楽曲 Damar Wulan (ダマル・ウーラン) =光続ける月 作曲：イ・デワ・プトゥ・ライ ※委嘱作品
- 器楽曲 篠笛とガムランの為の (曲名未定) ※初演 作曲：櫻田素子
- パロン前奏曲 Bangun Lemah (バンゴン・ルマー) =さあ起ち上げれ 作曲：イ・デワ・プトゥ・ライ
- パロンダンス Barong Ket (パロン・ケツ=バリ島の獅子)
- エンディング Interactions—Light (コラボレーション)
- 4月12日演目
 - 白澤鹿子踊保存会 岩手県上閉伊郡大槌町
 - バリ新作仮面舞踊曲 Tri Solah (トゥリ・ソラー=3つの性格) 作曲・原案：イ・デワ・プトゥ・ライ 振付：チョコルダ・アリット・アルタワン 舞踊：荒内琴江、石井直美、鈴木ちよこ ※委嘱作品・初演
- 4月13日演目
 - 金津流横浜獅子躍 神奈川県横浜市
 - バリ舞踊 Truna Gandrung (トゥルナ・ガンドゥルン=若者の愛の舞) 舞踊：荒内琴江

■出演者プロフィール



ガムラン・トゥラン・ブーラン Gamelan Terang Bulan
Terang Bulanはインドネシア語で「明るく輝く月」。バリ伝統曲、オリジナル作品、異分野アーティストとのクリエイションなどハイクオリティなサウンドを聴かせ、表現の可能性を追求するガムラン楽団。バリ島芸術祭に度々招聘、三陸国際芸術祭、東京シティ・バレエ団公演、NHK BSドラマ音楽、等、独自の表現力と演奏スキルはバリ島でも高い評価を得ている。CD『ガムランの小箱』。主宰は、音楽家・ガムラン演奏・作曲の櫻田素子(東邦音楽大学大学院非常勤講師)。



イ・マデ・マハルディカ I Made Mahardika
インドネシア・バリ島ギヤニャール県バトゥブラン村デンジャラン地区の、芸術家の家系の家に生まれる。トペン(仮面舞踊)の優れた踊り手、故イ・クトゥツ・スウェチャ氏を父に持つ。7歳よりパリス(戦士の舞)を、やがてトペンを踊り、聖なる獅子パロンに魅せられ踊り手となり現在に至る。役者、クンダン(太鼓)奏者としてもその才能を発揮、幅広いジャンルで活躍。2016・2019年三陸国際芸術祭に出演。



イ・デワ・プトゥ・ライ I Dewa Putu Rai
1977年生まれ。ISI(インドネシア国立芸術大学)卒業。ガムラン音楽と芸術絵画で知られるバリ島ギヤニャール県ウブド村ブンゴセカン地区出身。幼少の頃より頻りに行われるガムランの練習に触れ、演奏家である父のもと、4歳でクンダン(太鼓)奏者としての才能を発揮、ガムラン演奏家として活躍している。島内・海外ガムラングループ等の指導、優れた作曲者としても有名。伝統からコンテンポラリーまでこなす世界的に評価の高いガムラン楽団スダマニのメンバーとして、日本、アメリカ、等海外公演に多数参加。2016・2019年三陸国際芸術祭に出演。



デワ・グデ・グナ・アルタ Dewa Gede Guna Arta
1987年生まれ。ギヤニャール県ウブド村ブンゴセカン地区出身。幼い頃より父に連れられ地区のガムラン音楽練習に参加、いつの間にか演奏をするようになっていた。また近年、パロンの踊り手マハルディカ氏の後継者としてパートナーシップを組む。世界的に有名なガムラン楽団スダマニのメンバーとしてアメリカ公演に参加。2016・2019年三陸国際芸術祭に出演。



荒内琴江 Kotoe Arauchi ※日替り演目
バリ舞踊家。2000年愛知県立芸術大学美術学部彫刻学科卒業。在学中からバリ舞踊を習い始める。彫刻で人体を学ぶ中で知った自然の形の不思議、美しさ、その感動をバリ舞踊の中に見る。2004～2006年インドネシア国立芸術大学舞踊科留学。バリ舞踊グループNaga Jepang主宰。



ナーガ・ジュパン Naga Jepang ※4月12日のみ
バリ舞踊家、荒内琴江がインドネシア国立芸術大学舞踊科留学後、バリ舞踊グループ、ナーガ・ジュパンを結成、主宰。今年18周年を迎える。本公演では主宰、荒内琴江と共に、石井直美、鈴木ちよこの2名が踊る。



大野利可 Rika Ohno
日本伝統の竹の横笛である篠笛(しのぶえ)・能管(のうかん)奏者。篠笛・能管の尽きない古典の奥深さを探求しつつ、素朴さを心がけたオリジナル曲の創作も行う。いろいろな楽器、声、動きなど様々な表現との共演にも意欲的に取り組んでいる。音楽を通しての国際交流も重ねている。東京都出身。国立音楽大学卒業。篠笛・能管を鯉沼廣行に、一噌流能管を故・一噌幸政に師事。演奏と共に横笛の指導にあたる。



白澤鹿子踊保存会 Usuzawa Shishi Odori ※4月12日のみ
岩手県上閉伊郡大槌町で続く郷土芸能団体。約400年前、江戸時代寛永年代に房州から伝わったといわれる。しし踊りは岩手と宮城に多数伝承されているが、岩手県の旧南部藩領に伝わるシシ踊りはドロの木を薄く削ったカンナガラを纏い、荒々しく激しく舞う。舞の種類は、神仏の礼拝祈願、人々や野生鹿の生活を模したものなど多種あり、その数は43種類にわたる。参加者は幼い子供から老年まで幅広く、子供たちと共に主要な装束であるカンナガラのもととなるドロの木の植林活動を行うなど、未来を見据えた伝承活動に取り組んでいる。



金津流横浜獅子躍 Kanatsu-ryu Yokohama Shishi Odori ※4月13日のみ
金津流獅子躍(かなつりゅうししおどり)は岩手県奥州市江刺に約200年にわたって伝わっている鹿踊り(ししおどり)の一つです。金津流は他流の鹿踊りより儀礼を重んじた重厚で統一感のある躍りが特徴です。金津流横浜獅子躍は、2013年3月に金津流奥州獅子躍(岩手県指定無形民俗文化財・岩手県奥州市)より伝授され、横浜で活動しています。背中に背負った白い「ササ」は神の依代(よりしろ)とされ、ササに伝わり降りた神を獅子頭に宿し、ササで大地を清めながら、五穀豊穡、悪霊退散、祖霊供養を祈願し躍ります。8頭の獅子がリーダーである「中立(なかだち)」を中心に側獅子・雌獅子など役割分担し、自ら太鼓を叩き唄い躍ります。

